

整形外科 SSI 対策—周術期感染管理の実際

菊地臣一，楠 正人 ● 編

〔評者〕内藤正俊（福岡大病院長）

冒頭から卑近な例で申し訳ないが，筆者には 2008 年 10 月から院内感染に悩まされ，2009 年 1 月下旬には病院の管理者としてマスコミを通じて世間に謝罪した苦い経験がある。外国旅行中に危篤となって当院救命救急センターへ搬送された患者に感染していた多剤耐性アシネトバクターを，救命救急センターの 22 名と某外科系病棟 4 名の合計 26 名の患者に感染させるという不祥事であった。感染を伝播させたと考えられたのは救命救急センターの呼吸器系機材と某外科病棟での創処置であった。院内感染が鎮静化するまで手洗い・消毒や清潔な創処置についての度重なる職員教育などを行い，救命救急センターと某外科系病棟への新規入院患者の受け入れを中止し，某外科による手術も禁止した。いったん院内感染が起こればその制御がいかに困難であるかを体験した。また外科系の一員として患者だけでなく施設全体に重大なダメージを与える手術部位感染(surgical site infection: SSI)に関する包括的な知識を身につける必要性を痛感した。

待望の整形外科領域での極めつけの専門書，『整形外科 SSI 対策—周術期感染管理の実際』が発行された。総勢 90 名を越える専門家

による労作であり，わが国の整形外科の泰斗である菊地臣一福島県立医科大学理事長兼学長と SSI に関する第一人者である楠正人三重大学教授により，臨床現場ですぐに役立つよう実践的に編集されている。I 章では周術期感染対策について概説されている。感染を起こさないための術前の SSI 対策や実際的な手術時の手洗い・手袋・ドレープ・ガウンの仕方などがわかりやすく解説されている。II 章では整形外科領域での横断的な周術期感染対策の基本を，手術・手技別および特殊な問題をもつ患者について記載されている。さらに現在広く行われている貸し出し器械についても述べられている。III 章では整形外科医が知っておくべき感染発症時の実践的な対応を部位別の具体的な手術に即応して教示されている。また SSI に関して手術室や病棟でよく議論になる事柄が Q&A に簡潔にまとめられ，要所では実際に治療に難渋した症例を「症例で学ぶ」として追加されている。診断・治療のポイントや実際にどう対応したかなどが簡素でしかも手に取るように示されている。

わが国の整形外科では，合併症により免疫能が低下した患者や高齢者に対する手術が日常茶飯事と



なっており，SSI の危険性が常に潜んでいる。本書に述べられているとおり，SSI は外科手術患者に発生する感染症の中で 38% を占め，術後感染症の中で最も多い院内感染症である。いったん院内感染が起これば猛威をふるうと，発生源となった外科への新規入院の停止だけでなく手術も禁止される事態が招来する。保存的治療に専念されている先生方以外のすべての整形外科医にとって，必読の書として本書を推薦する。

B5 頁 320 2010 年
定価 8,400 円(本体 8,000 円+税 5%)
医学書院 刊